

会議名	令和5年度 第2回愛荘町健康づくり協議会 会議録
開催日時	令和6年2月21日(水) 13時15分から14時45分まで
開催場所	愛知川庁舎3階 第1委員会室
出席者	<p>【委員】10人</p> <p>矢部隆宏 西村ふき子 宇野久七郎 中井朋子 堤伸二 中村恭子 村西範彦 大槻三美 三浦寛二 小財敬子</p>
欠席者	<p>【委員】</p> <p>曾我幸史 嶋村清志</p>
事務局	木村政策監(兼健康推進課長)・堀参事・鈴木課長補佐 北村課長補佐・畑
傍聴者の数	0人
議題	<p>「健康のまちづくりアンケート調査」結果報告</p> <p>「健康と福祉のまちづくりアンケート調査」結果報告</p> <p>健康あいしょう21(第4期)の目標達成状況について</p>
審議内容	<p>○アンケート調査の結果報告、結果から見える課題について</p> <p>○健康あいしょう21(第4期)の目標達成状況について</p> <p>○健康あいしょう21(第5期)策定スケジュールについて</p>
問い合わせ先	健康推進課 担当 畑 あやの 連絡先 0749-42-4887

令和5年度 第2回 愛荘町健康づくり協議会会議録

日時：令和6年2月21日（水）13時15分～

場所：愛知川庁舎3階 第1委員会室

【次 第】

あいさつ

1. 協議事項

- (1) 「健康のまちづくりアンケート調査」「健康と福祉のまちづくりアンケート調査」結果報告

健康あいしょう21（第4期）の目標達成状況【資料1、1-2】【資料2】

2. その他

- (1) 健康あいしょう21（第5期）策定スケジュールについて【資料3】

事務局：定刻になったので始める。お忙しい中お集まりいただき感謝する。令和6年度第2回愛荘町健康づくり協議会を開催する。開会にあたり、協議会会長よりご挨拶いただく。

矢部会長：前回に引き続き、皆様の貴重なご意見を頂戴したいのでよろしく願います。本日は、アンケート結果、愛荘町の健康課題について協議し、次年度に向けて方向性を確認する内容である。活発なご意見をお願いしたい。

事務局：続いて、福祉政策監木村よりご挨拶申し上げます。

木村政策監：お忙しい中お集まりいただき感謝する。能登半島の地震もあり、災害によりお亡くなりになった方にご冥福をお祈りするとともにご遺族にお見舞い申し上げます。愛荘町では、生涯にわたり心も体も健康で生きがいを持って暮らし続けられるその人らしい輝いた人生を送るため、一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むことを大切にしている。また住民や健康づくり協議会の協力を得て、令和2年3月に健康あいしょう21第4期計画を策定した。健康づくりが一人ひとりのQOLの向上につながるよう、関係機関や団体と連携して持続可能な効果的な健康づくりを進め、誰もが住み慣れた地域で健康で生き生き暮らせるよう、さらに愛荘町に住んでいるだけで健康になれるまちづくりを目指して推進している。来年度は健康あいしょう21の改定の時期である。今年度は健康づくりアンケート、健康と福祉のまちづくりアンケートを実施した。本日は、その結果報告と第4期の目標達成状況についてご協議いただきたい。

事務局：出席者は次第裏面の名簿の通りである。尚、曾我委員、加賀爪委員が欠席である。事務局の出席者は第1回と同様である。本日もジャパン総研に出席いただく。

→資料の確認をした。

事務局：会議要綱第8条第3項の規定により、以降の議事進行は矢部会長にお願いする。

矢部会長：次第1「健康のまちづくりアンケート調査」「健康と福祉のまちづくりアンケート調査」結果報告について、事務局から説明をお願いします。

ジャパン総研：資料1、資料1-2、当日資料に基づき説明した。

矢部会長：ただいまの説明について、ご質問ご意見はないか。課題2の性別に関して、30～50代でストレスを感じている割合が高い。特に40代以上の男性で相談相手がいない、毎日飲酒をしているなど、男女でのコミュニケーション能力の違いが顕著である。例えば、点滴の際も女性同士ではすぐに会話が始まるが男性は話さない。男性は、ある程度の孤独に耐えることはできるとも思う。

宇野委員：アンケート結果では、言葉の意味をほとんど知らない。周知のため、目に見える形で表せないものか。「噛む COME+10」もそうだが、できるだけ言葉を視覚化していただきたい。

矢部会長：活字離れが進み、本を読まない時代になっている。誰しもが情報を得るためにはデジタル化が重要である。

中村委員：初めての参加になる。アンケートの調査項目も議論いただいているが、初めて結果を見ていると理解が難しい項目もあった。健康あいしょう21の基本方針は、住民一人ひとりの主体的な健康づくりの推進、生涯を通じた健康づくりの推進、手を離さない健康づくりの推進の3本柱である。アンケート結果はどちらかというと個人的な部分になる。「手をつなぎ、手を離さない健康づくりに」に対する住民の思いはどこにだしていけるのか。また、誰と誰の手を離さないとしているのか。どのように次期計画につなげていくのかも含めて、アンケート結果をどう読み解くのかお聞きしたい。

矢部会長：例えば、アンケート結果で気になったのはどこか。

中村委員：中学生のアンケートの助け合いの部分で、もっと怒ってほしいという以外な意見があった。一方で、大人がしっかりしてほしいという意見もあり、つながりを求めているのかと思った。

矢部会長：他にご意見はないか。なければ次の項目として、健康あいしょう21（第4期）の目標達成状況について、事務局より説明をお願いします。

事務局：資料2に基づき説明した。

矢部会長：適正体重を維持しているというのは、やせも肥満も両方ということか。

事務局：数値を定める時に、やせと肥満を差し引いた標準体重で評価をした。

矢部会長：虫歯が徐々に減っているのはフッ素の活動をしてからか。

事務局：虫歯については、3歳児はフッ化物洗口をしていないためその年の状況による。小学1年生は5歳からフッ化物洗口をしているため少ない傾向になるが、影響を受けにくい年代でもある。中学1年生の虫歯が減っていくのは令和元年度から実施しているので、もうしばらく時間がかかる。虫歯のない子は増えているがある子はいっぱいあるという二極化している状況である。

矢部会長：少し前には、愛荘町は虫歯保有率ナンバーワンだった。それに比べると他の市町に近づいている。第4期の目標達成状況の説明があったが、何かご意見ご質問はないか。

宇野委員：コロナがあったので、正確な統計ができていないと思う。あまり参考にはならないかもしれない。本来ならば高齢者に対しての講座を開きたいが集まりづらい。できないと健康体操も高齢者に伝わらず、家にこもり体力が衰えていったと考えられる。次の計画でどのように挽回するかが大事である。

矢部会長：コロナの約3年間でこの第4期に入っている。コロナ禍でそれどころではなかった面もあった。

中井委員：小中学生の朝食欠食率があるが、食べたくなくて食べてないのか家で用意されていないから食べていないのか、様々な理由が考えられる。薬の関係で食欲がでないということもあるため、食べられないからといって一括りにはできない。気持ちを静めたり動きを抑えたりする薬は食欲がでない。

矢部会長：発達障害に関するものか。

中井委員：薬を飲んでいる子も多い。アンケートは中学生が答えているので、どこまで正確かは分からないが。

矢部会長：朝食が準備されていないのと食べる時間がないのでは差は大きい。そこまで踏み込むのは難しいかもしれない。それぞれの所属先からの意見をいただきたい。

西村副会長：健康推進員としての感想だが、自分や家族のことしか考えていなかったが、愛荘町の皆さんのことを考えないといけないと思うようになった。研修で勉強している健康の情報は、テレビ、新聞からも伝わってくるため一致していると思った。

宇野委員：協議会では特定健診において、来年度からは費用をいただかず無料で健診を実施する方向で決まっている。健康推進員の活動が伝わっていない。滋賀県はここ数年、男女

共に長野県を追い越し長寿社会として突出している。滋賀県の近江牛や発酵食品が体にいいと言われているが、健康推進員が地道に住民の健康福祉啓発を行っているから長寿社会になっていると県も考えている。活動している人も自信をもって町民にはたらきかけていただきたい。コロナで活動もできていなかった。以前は小中学校に出向いて健康福祉に関するお芝居をしたりしていたが、今はまったくできていないので仕方がないと思う。「手をつなぐ」については、昨年までは、坂道を上るのは1人では大変なのでみんなで手をつなぎ合って登っていこう、大きい玉を押し上げるのもみんな、という意識がビジュアル化されていた。今回も、もう少しアピールしていかなくてはいけない。以前は糖尿病になったらどうなるなど目に見える形であった。そういうものを再度整理して次のプランを立てるとよい。計画に言葉の説明だけでなくプランを前面にだして認知させていくことが大切である。

矢部会長：ビジュアル化について、理想だと思うが可能か。

木村政策監：計画の P16 にも、ヘルスプロモーションの考え方などを分かりやすく書いている。次回も、誰が見ても分かるような計画書にしていきたいと思う。

中井委員：資料 1 - 2 に小学校区別のクロス集計をだしているが、地域福祉計画とどう関係しているのか。

ジャパン総研：今検討いただいているのは、健康あいしょう 21 という健康づくりの計画である。それとは別に、愛荘町の地域福祉計画策定を進めている。こちらは地域の助け合い、支え合いをどう進めていくかという計画で、地域福祉のアンケートという形で実施している。一般住民の方には健康と福祉 2 つのアンケートを別々に実施しているが、中学生は 1 つのアンケートで健康と福祉、2 つの分野について質問している。その中で地域福祉に関する計画なので、小学校区ごとのクロス集計も入っている。

中井委員：小学校で教えていないため、自分の校区では低いのかと心配になった。町の政策を小学校で教えなければならぬとなると厳しいと思う。嚙む COME+10 の大切さは分かっているが、施策の名前は知らないと思う。

堤委員：健康意識づくりとあったが、事業所では健診は必須である。その後の治療、治療結果まで追って職員の健康づくりを推進しているが、JA ドックという形で地域での健診機会を増やしている。健（検）診結果がその後の行動につながっていくと考えた時、町の特定健診の受診率が目標に達していない。特定健診の受けやすさ、機会の充実にも取り組んでいくべきだと思う。

矢部会長：来年度から特定健診が無料になると増えるのか。

事務局：現在 500 円自己負担をいただいているが、無料にすることで受けやすい環境になるのではないかと考えている。コロナもあり受診率が下がっているので、元に戻すことを目標に周知の方法を検討している。

矢部会長：コロナ禍では病院に行くことで感染の恐れがあるということで受診控えが多かった。その影響がでている。本来なら早期で助かっている方が手遅れになる場合もあった。

中村委員：コロナがあったからというが、これからも感染症がいつ起こる分らない。そういうことを踏まえて、次に起こった時にはどうするかを含めて記載できるとよい。一般住民アンケートの中で、コロナ禍でも誰かとコミュニケーションする機会が増えたという方がいる。特に 70 歳以上の女性が顕著である。どのような工夫をして機会を増やしたのかも聞きたい。そういったことも参考にしながら次の計画に記載するとよいと思う。中学生のアンケートで、自分のことが好きかという設問もある。この質問はどのように解釈して次に反映させていくのか疑問に思った。助け合い、支え合いのところで、こんな活動がしてみたいというのも提案してくれているので、町が自分達の実現してくれると思うと明るい健康づくりができると思った。

矢部会長：自分のことが好きかというのはシビアな質問である。

宇野委員：自分のことを好きになろうというのが教育の場で大切になっている。人を好きになることも大切だが、まず自分自身を好きにならねばいけない。幼少期から自己肯定感を身に付けさせようという教育をしている。健康でなくても自分が好きというように、自分を肯定していく力を身に付けることで次の一歩がでていくという教育をしているので、その結果だと思う。

中村委員：そう感じてもらえるように、大人がどう関わっていけるかが大事である。

宇野委員：あまり関わってもらいと嫌かもしれないので見守ることだ。がんばれではなく、がんばっているな、という声掛けが大切である。特別支援学校の子が普通級に入ってくるようになり、現場は大変である。実習を伴うような工業高校の場合などは、発達障害の子に作業をさせると命に関わる。見守り体制など、それぞれの学校での工夫もある。

矢部会長：アンケートで自分を好きな子が増えるとよい。

村西委員：商工会青年部として健康に関する取組ができないかという話をした時に、比較的若いので精神的な部分の健康に観点をおいた活動をしたくなった。県から助成金をいただき、メンタルケアのセミナーを2月5日に行った。社労士事務所の先生に来ていただき、人材定着支援プロジェクトとして、「安心して働きやすい環境づくり、ストレス対策としてのマインドフルネス」というタイトルで実施した。メンタルを軸においた健康についての取組を各事業所でどのように取り組んでいくのか、事業主のメンタルケアの考え方について開催し、参加者は10名弱だった。有意義な内容だった。心の健康は非常に大事である。中学生のアンケートにおいて、メンタルに関する設問がもう少し多くてもよいと思った。中3と中2の子どもがいるが、友達関係や部活動での悩みなど、メンタルの相談がほとんどである。そちらを重点的に聞いて、その観点から取組を検討してもよいと思った。

矢部会長：一定の年齢以上になると、健康に不安になる。若い人は酷い生活をしていてもめったに倒れることはない。どちらかといえば精神的なことが重要だと思う。良い取組だと思う。社労士の方に来ていただいたのか。

村西委員：2時間程の講習会である。毎年実施しているが、これまでは商売の話中心だった。今回は健康づくりの内容で開催した。

矢部会長：30～50代の働き盛りの男性で自殺率が高い。スパイラルに入ると、どうしようもなくなる精神状態になる。そうならないように、予防に取り組んでいただけるとよい。

大槻委員：食生活のところで、「何も気をつけていない」が増えるなど、意識、知識、行動が悪くなっている。コロナの影響もあって、がん検診受診率も戻ってきていない。保健所には、家族がコロナになった、保健所でPCR検査できるかなどの問い合わせが今でもあり、一部の人は不安に思っている。そういう方の行動が戻っていない。コロナ以外の理由があるかもしれないので、分かれば次の計画に反映できると思う。給食施設を持っている企業に健康づくりの聞き取りを行っているが、取組に差がある。就職する会社によって健康寿命が変わってしまう。次の計画では、生活しているだけ、住んでいるだけで無意識に健康になれる取組があればよい。虫歯は数年前から子どもに使用できるフッ素の濃度が上がったため虫歯が減っているのかもしれない。嘔むことに困っているについて、男性で30～40代で増えている。症状がでていない若い世代からそういう取組をしていくとよいと思う。たばこの受動喫煙の害について、吸っている人は知っていて吸わない人は知らないというのが意外だと思った。

矢部会長：今は、人のいないところで吸うようになっているため知らないのかもしれない。家庭内でヘビースモーカーいると迷惑である。

大槻委員：換気扇の下で吸っている人がまだいる。

宇野委員：臭いがしないたばこは、副流煙が分からない。

矢部会長：コロナはただの風邪になっている。気にしている人はいるが。

三浦委員：資料1のP66、施設の利用状況については図書館が多かったのでありがたい。これだけの集客力あるところなので、健康推進課と連携してがんの講座を実施した。50名以上の参加があった。一般的な講座もコロナ前の集客に戻っているため、集客力を活かして健康の推進について広報していきたい。健康以外についても、委員からも図書館を使いたいということがあればお申し出いただきたい。P66の集計について、図書館利用で「健康ではない」が14.6%と低くなっていると記載があるが、数字的に低いということか。または割合的に低いという意味なのか。

事務局：クロス集計は健康な方、健康でない方それぞれで集計している。図書館に限って見た場合、健康ではない人の割合が低くなっているという意味合いである。

三浦委員：そうであれば、健康ではないという方が低くなると思うのだが。

事務局：それ以外の、健康である、まあまあ健康であると比べて目立っていたためである。分かりやすいように表現を変える。

三浦委員：確かに健康でない方が来ていないというのは数字から読み取れるため課題ではある。また、中学生アンケートP23以降の質問では、性別クロスだけ載っていて健康状態クロスがないのは何か理由があるのか。

事務局：地域福祉計画がメインの設問で関連が薄い部分は省いている。ただ、健康状態との関係性もあると思うので、地域福祉計画の会議での意見も参考にしながら検討したい。

矢部会長：コロナで図書館利用はどれくらい落ちたのか。

三浦委員：来客数は減ったが貸出数は増えている。行事はすべて再開して、参加者は元に戻っている。

小財委員：中学生のアンケートで特産品を聞いているが、半数以上が全く知らないとなっている中でうどんや山芋があがっているのは、給食にでるため知っている子がいるのだと思う。半数以上知らないという実情があるので地道に啓発していきたい。朝食については課題だと思う。低学年から大事だという意識づけが必要である。

矢部会長：給食はコロナ禍でも普通にあったのか。

小財委員：黙食でパーテーションを設置するなどがあったが、徐々に戻りつつある。

矢部会長：滋賀県は男性も女性も長寿になっている。自信をもって取組をしていければと思う。以上で終了する。進行を事務局にお返りする。

事務局：資料3、追加資料について説明した。

木村政策監：中学生に対して自分が好きかどうかなどを掘り下げてというご意見もあったが、昨年度1、2年生を対象に、いのち支え愛プランのアンケートを実施している。そちらでは、幸福度や死にたいと思ったことはあるか、悩みについて話せる人はいるかなど、きめ細やかに聞いている。今回は第2期ということで、幸福度については中学生も一般も幸せだと思っている人が60%程度になることを目標にしている。ビジュアル化も大事なので計画策定に向けて考えていきたい。健康推進課は予防が主だと思うが、ここ2～3年はコロナ対策が目いっぱい予防の新たな事業ができなかったのを見つめ直していきたい。自分が好きかという質問に関しては、教育委員会を中心として未来を築く16年教育を推進している。お腹の中にいる時から大事な命ということで進めている。いいところも悪いところも含めて自分が大好きといえる人材育成に力を入れている。そちらも含め、健康あいしょう21に掲げていきたい。また、能登の震災もあったので防災も含めて計画に反映させていきたい。本日はありがとうございました。

事務局：県の計画は案の段階で、今後修正があり確定版が示される。それも踏まえて、健康あいしょう21を作り上げていきたい。

以上